



神戸国際大学キリスト教センター通信

2024年12月3日

ブルーリ潰瘍の子供たちを救え!

ありがとう 25 年_③

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉哲哉

1999 年秋に発足した神戸国際大学のプロジェクト SCOBU は、おかげさまでみなさまからお預りした支援募金やチャリティーの収益で、これまでに西アフリカのガーナ、ベナン、トーゴ、パプアニューギニアなどの病院に、携帯用医療器具や入院患者子供の教育支援として文具などを寄贈するとともに、リハビリテーション学部教員が理学療法の技術指導を行って参りました。

この活動を始めた当時は、私たちは「遠く離れたアフリカの難病の子供たちのために何ができるだろう?」と問いかけました。難病という課題に取り組むにあたって、当時 1 学年 300 人定員の経済学部単科大学に一体何ができるというのか、せめて募金を集めて現地に送るくらいしかできないのかと考えました。そして気付いたのは、私たちは大学なのだから医療や経済にこだわることなく、大学らしいことをすればいいということでした。

大学らしいこととは何か、まず教室で学生にこの病気のことを伝える、アフリカの社会について一緒に学ぶ、つまり国際大学なのだから地域研究として世界の情勢を勉強し、国際人になるための働きを学ぶことだと考えました。いまでもまだ広くは知られていませんが、プロジェクト発足当時はブルーリ潰瘍が日本国内では医療関係者にも知られていなかったことから、まずはみなさんに知ってもらおうと国内での周知活動から始め、大学が主催する国際シンポジウムを 1999 年と 2000 年の秋に神戸市産業振興ホールで開催しました。このシンポジウムには国内外のブルーリ潰瘍関連の医師・WHO 関係者、アフリカ各国大使をはじめ、神戸国際大学の学生教職員、神戸市民のみなさんが参加して、難病ブルーリ潰瘍の実態について学び、支援について考える機会となりました。

あわせて、神戸市内の区役所のホール、ショッピングモールなどで広く市民のみなさんに向けた写真パネルの展示を行うとともにマスコミ各社にも働きかけて NHK BS ニュース、NHK 神戸放送局のテレビラジオ、大阪ケーブルテレビニュースコミュニティ FM、毎日新聞、読売新聞などで紹介されるに至りました。



また、本学のキリスト教センター・チャペルでは、これまでパイプオルガンによるコンサートなどを行っています。1 年に 2 回のペースで七夕とクリスマスの時季にブルーリ潰瘍の子供たちを支援するチャリティーコンサートも開いてきました。“Vocal Ensemble TWIGHT BELLS”「ヴォーカルアンサンブル トワイライトベルズ」によるア・カペラコンサートは本学のチャペルで 30 回を超えて開催され、六甲アイランドをはじめ神戸や大阪のコーラスファンのみなさんにも愛されてきました。

さらに、本学のチャペルを飛び出して神戸文化ホール、六甲アイランドのファッション美術館に併設されているオルビスホールと KFM 神戸ファッションマートのアトリウムで、アンサンブルによるコンサートを開催(画*)したほか、奈良県の篤志家が声楽によるコンサートを申し出て下さるなど多くのアーティストにもチャリティーにご協力を頂いてきました。



これまでチャリティーの会場にお越し下さいましたみなさま、ご協力を下さいましたみなさまには、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

